



<昭和31年 当時2歳>

昭和28年、大阪で誕生。体を動かすことが大好きで近くの大和川によく泳ぎにいきました。

地元を離れ苦学した高校時代。「庶民を守る人に」と弁護士を志します。



<高校入学の時 母と友人>



<28歳 青年弁護士時代>

大学卒業後、働きながら勉強を続け、昭和53年司法試験に合格。晴れて弁護士になります。



<36歳 衆院選で初当選>

弁護士として懸命に働くなかで、庶民に光があたる日本の改革が必要だと痛感。悩みぬいた末、平成2年衆議院議員に立候補。若干36歳で初当選を果たしました。

プロフィール

思慮深さの証

時にはジャズで心にゆとりを

不眠不休で戦う証

青春時代 サッカーで鍛えた足



なべやきうどんが大好き♡

北がわ一雄(きたがわ かずお)
 公明党副代表
 元国土交通大臣・観光立国担当大臣
 弁護士・税理士
 身長 : 168cm
 血液型 : B型
 家族 : 妻と2男
 最近 : 古代史にハマっています。

難病治療の負担を軽減



多発性骨髄腫の治療薬・サリドマイドは、安全管理システムの影響で、1カプセル6,570円と、患者にとって大きな負担だった。北がわ一雄は09年5月、党の医療制度委員会で要望を聞き、その後、厚生労働省に働きかけ、負担軽減策を推進。民主政権後も、実現へ奔走してきた。

「日本骨髄腫患者の会」副会長 上甲恭子さんの声

『北がわさんは、関西空港の24時間化などの大きな課題だけではなく、数少ない私たちの声を受け止め、一緒に悩み、知恵をしばって、負担の軽減を実現させてくださいました。他のどの議員も取り上げてくれなかったのに、まるで「患者の会」の一員のように、懸命に問題に取り組んでくださり、感謝の思いでいっぱいです。』

現場へ「動く」。「ひと」を守る。

北がわメール 登録のお願い



- ①QRコードから宛先(regi@kitagawa-sakai.jp)を読み取ります。 ※登録完了メールが届かない場合は、迷惑メール防止設定の解除、あるいは 下記のドメイン指定設定を行ってください。[@kitagawa-sakai.jp]
- ②件名、本文には何も入力しなくてOK!
- ③送信!
- ④登録完了メールが届きます。

現場へ「動く」。「ひと」を守る。——北がわ一雄の実績集



清流「大和川」の復活へ
鮎が100万匹遡上する川を目指します

環境を守る

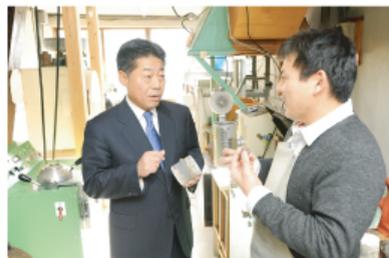
- 堺臨海部に太陽光発電所(メガソーラー)施設の誘致を推進
- 堺浜に広域防災拠点を整備。災害に備え、ハザードマップ(災害予想図)の作成支援
- 小中学校の耐震化を促進。学校への太陽光パネル設置を推進
- “清流の復活”をめざし、地域ぐるみで大和川の清掃活動に取り組む
- 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を目指す



日本最大規模のサッカー練習施設
「J-GREEN堺」の誘致にも尽力

いのちを守る

- 妊産婦検診を14回まで無料に。出産育児一時金も42万円に増額
- 女性専門外来を設置。女性特有のがん検診に無料クーポン券を配布
- 公共施設にエレベーターや、障がい者用トイレなどの設置を加速させる「バリアフリー新法」を制定
堺市内全駅のバリアフリー化を推進



常に「現場第一主義」が信念。
堺区内の町工場で、直面する諸課題を伺う

くらしを守る

- 緊急保証制度を創設、中小企業の資金繰り支援を強化
- 雇用調整助成金制度の拡充で、最大9割の休業手当を実現
- 関西国際空港の二期滑走路の竣工と完全24時間化を実現
- 堺東、堺臨海、鳳を都市再生緊急整備地域に指定

エピソード

現場へ

JR福知山線脱線事故

北がわ一雄が国交大臣を務めていた2年間は、予期しない災害、事故等の連続だった。豪雨災害、中越地震、耐震偽装事件等々。北がわは常に現場へ直行した。

特に、05年4月のJR福知山線脱線事故は、わが国の鉄道史上最悪の大惨事となった。北がわは、事故の一報を受け、すぐさま自らが本部長となる事故対策本部を立ち上げるとともに、事故現場に直行し、最前線での救出作業を指揮。運転再開の声には、「改良型列車自動停止装置(ATIS)を設置するまでは運転再開は許されない」と厳しい対応をとった。迅速な対応と安全を最優先にした姿勢は高い評価を受けた。この事故を契機に、運輸全体の安全確保のための「運輸安全法」を成立させた。



福知山線脱線事故現場で救出作業を見守る(05年4月25日)